

第2回江別市食育推進計画策定委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和5年9月11日（月）18時30分～19時30分

場 所：市民会館31号室

出席委員：小林委員長、野内委員、尾澤委員、佐藤（倫）委員、
佐藤（盛）委員、今林委員、布施委員、齋藤委員（計8名）

欠席委員：星野副委員長、八巻委員、中村委員（計3名）

事務局：渡部経済部次長、佐野農業振興課長、川合農政係長、
栗生主任、竹内主事（計5名）

1 開 会

2 第4次江別市食育推進計画素案について

【小林委員長】

次第の1「第4次江別市食育推進計画素案について」、事務局より説明願う。

【事務局】

資料1「第4次江別市食育推進計画素案 変更概要」についてだが、次期計画へ移行するにあたり、変更箇所を一覧化したものである。計画全体の変更点を確認する際に参照願う。大きな変更点としては、SDGsの説明ページの追加と、環境分野の追加に関連するものがある。

変更内容の詳細については、資料2「第3次江別市食育推進計画 第4次江別市食育推進計画（案）比較資料」に基づき説明する。

この資料は、見た目上の変更点を比較しやすくするため見開きの左ページが現計画、右ページが次期計画の案を掲載している。以降の説明におけるページ数は右側のページ数で説明する。

まず、「第1章 計画策定にあたって」について説明する。1ページ「1 計画策定の経緯」については、新型コロナウイルスの影響による食生活の変化についての記載と、国の基本計画のコンセプトである「食育によるSDGs達成への貢献」を受けた内容の記載が大きな変更点である。

2ページ「3 計画の位置づけ」については、計画年度の変更や、国と道、市の各計画を最新の内容に変更している。

3ページ「食育の推進とSDGs」については、SDGsについての解説となっている。なお、次期計画において関連性が高い3つの目標を最後の段落に掲載している。以上が第1章の説明である。

【小林委員長】

何か質問はあるか。（なし）

【事務局】

続いて、「第2章 国及び江別市の現状について」説明する。

第2章では、国の各種調査から食育に関連するものを抜粋し、各指標の現状について掲載している。後段では、江別市がどのような取り組みを行い、今後必要なことについて記載している。

4ページから11ページには、各種調査の結果を記載している。

変更となった調査項目は5ページ目の「②食育として実践したいこと」、8ページ目の「③朝食を食べる頻度」である。変更理由としては、現計画で指標としていた調査が終了していることから、類似する指標に変更したものである。

また、9ページから11ページで、次期計画で追加となる環境分野に対応する指標を新たに追加している。

12ページからは、江別市の現状となる。

12ページの「(1)食生活の現状」については、現在策定中の江別市民健康づくりプラン21の文言に合わせ、今後修正のうえ内容確認いただく予定である。

13ページから14ページでは、「保健分野」「福祉分野」「教育分野」「農商工分野」「環境分野」の5つの分野の取り組みについて説明している。

なお、「農商工分野」は、現計画では「農業分野」と「消費者行政分野」に分けているものを、次期計画では一本化したものである。

また、「環境分野」は新設の分野で、食品ロスに関する啓発活動推進の必要性について記載している。

15ページでは、食にかかわる様々な活動ということで、市内で行われている食育に関わる活動について記載している。

以上が第2章の説明である。

【小林委員長】

何か質問はあるか。

【今林委員】

5ページ記載の「今後1年間食育として実践したいこと」の調査は、男女混合の調査か。

【事務局】

そのとおりである。

【小林委員長】

自分は、現在野菜摂取量について保健センターと調査しているが、速報値が悪い。

12ページの「食生活に係る目標指標」も、これから出る数値が悪い可能性がある。また、14ページの「朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合」の数値も下降気味である。これらの結果というのは、新型コロナウイルスの影響が少なからず影響していると思うので、新型コロナウイルスに関連する指標を追加すべきと思う。

【事務局】

国の調査の中でも、食についての新型コロナウイルスと関連したものがあるので追加したい。

【小林委員長】

どのような指標をどの部分に追加するのかは、他の委員の方にも必要性の可否も含めて確認してもらいたい。

【事務局】

承知した。後日メールもしくは文書で意見を述べてもらいたい。

【事務局】

先ほど、委員長から「野菜摂取量」の速報値や「朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合」の数値が悪く、これらは少なからず新型コロナウイルスの影響を受けていると類推はできるのだが、因果関係を結び付けにくい。計画策定にあたって、委員の皆様には、新型コロナウイルスがどのように食に影響を及ぼしているのかが分かる研究成果やデータがあれば、それぞれの立場から資料等提供してほしい。

【小林委員長】

承知した。

【布施委員】

15ページ記載の「給食残渣の有効活用」についてだが、あえて「市内民間事業者と連携して」といったところまで記載したほうがいいのか。食品ロスは給食に限ら

ず発生しているため、文言について検討してほしい。

【事務局】

給食残渣は、防ぐことができる食品ロスではなく「給食でやむを得ず発生してしまう」ものであり、所管部署としてはその部分を強調したいことからこのような内容となった。文言については改めて所管部署と検討したい。

【小林委員長】

教育的な視点から、給食残渣の有効活用について、児童に対してアウトプットされているのか。札幌市では積極的に知らせている。

【佐藤（倫）委員】

江別市は、給食残渣の有効活用について児童に知らせるようなことはしていない。児童への説明としては、食品ロスになったものは肥料等に有効活用される、といった説明でいいと考える。

【事務局】

所管部署にも確認したところ、やはり学校側が児童に給食残渣の有効活用について積極的な説明を行ったことはないと確認している。

【小林委員長】

SDGs の観点もあるので、文言について改めて検討してほしい。

【事務局】

承知した。

【齋藤委員】

13 ページの記載内容だが、「ふれあいレストラン・ふれあい料理教室の参加者の増加」から「ふれあいレストラン・ふれあい料理教室の開催」に変更されたのは効果の測定が難しいからか。

【事務局】

所管部署に確認したところ、この事業は「参加者を増加」させるよりも事業の継続を維持させたいということだったため、「開催」という文言にしている。

【布施委員】

各ページの写真は更新されるか。

【事務局】

最新のものに今後更新していく。

【事務局】

続いて、「第3章 第4次食育推進計画について」説明する。

16 ページ、17 ページについては、環境分野を追加したことによる変更がある。

19 ページには、令和3年に農林水産省が公表した食育ピクトグラムを掲載している。分野ごとの取り組み方向性の中に、関連するピクトグラムを掲載している。

20 ページから29 ページでは、各分野の取り組みの方向性、取り組み例を記載しており、大きな変更点についてのみ説明する。

22 ページ、23 ページ記載の「市内保育園クッキング保育」は、現計画の「季節を感じるクッキング」の名称が変更になったものである。

27 ページ「取り組み例：小麦追跡学習」は、事業の内容として、現計画記載の「野菜の学習」よりも食育の取り組みに合致していると判断し、変更している。

28 ページ、29 ページには新設された環境分野について記載している。

ここでは、環境配慮に関する情報提供のほか、食品ロス削減などを目的とした取り組み、取り組み例を記載している。

30 ページには、計画推進の成果指標を掲載している。

なお、前回の策定委員会において、現計画の各成果指標の根拠を示してほしいと話

があったことから、まとめたものを資料3として用意している。

資料2の30ページに戻るが、前回の策定委員会において、指標の継続性も大事だが、指標の変更についても意見があったことから、記載のとおり内容を見直した。見直しの内容としては、現計画の指標は、分野及びライフステージに偏りがある印象があったため、次期計画では原則各分野から最低1項目、ライフステージの観点からもできるだけ偏りがないようにした。

具体的には、保健分野と教育分野から「朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合」、保健分野から「1日の推定野菜摂取量（成人期）」、福祉分野から「介護予防教室の参加者数」、教育分野から「栄養教諭による「食に関する指導」実施学級数」、農商工分野から「農業体験学習等延べ参加者数」、環境分野から「1人1日当たりの家庭系食品ロス量」としている。ライフステージも、学齢期は多くなるものの、成人期から高齢期までを対象とした指標としている。

以上が第3章の説明である。

【小林委員長】

何か質問はあるか。

【尾澤委員】

次期計画案全体を確認したうえでの意見となるが、野菜摂取量が減少していること、女性の低栄養、高齢者の低栄養の割合が増加していることは分かるが、体を構成して低栄養を防ぐには、野菜を摂取するだけでなく、タンパク質も不可欠な栄養素である。このことから、タンパク質の必要性についても次期計画に記載するとともに、栄養バランスについても、野菜だけではなくタンパク質など様々な栄養素が必要とといったことを記載するべきと考える。

【事務局】

ご意見については、江別市民健康づくりプラン21の素案の内容を確認しながら文言の追加・修正を行いたい。

【野内委員】

21ページ記載の離乳食教室についてだが、この教室では例えば1からつくった離乳食の大切さについて説明しているのか。忙しいなかで、インスタントの離乳食を使うこともあると思うが、1からつくった離乳食というのは子どもの味覚を形成するうえで大事なことと考えるので、この取り組みの中で、重要性を伝えたり、実際に作ったりしているのかを確認したい。

【事務局】

所管部署に、取り組みの考え方も含めて確認し、次回の委員会で説明する。

【佐藤（盛）委員】

19ページ記載の食育ピクトグラムのなかに、「1 共食」とあるが、新型コロナウイルスの影響もあって、小中学校の給食では黙食をしているところもあったが、現状はどうなっているのか。

【佐藤（倫）委員】

学校ごとによって対応は異なる。自分の小学校では、新型コロナウイルス前のように、席をくっつけたりするようなことはせず、同じ方向を向いて食事しているが、現在は黙食ではなく多少の会話はしている。

【小林委員長】

食育ピクトグラムを、各分野の取り組みの方向性に掲載しているが、取り組み例の写真の部分に掲載してはどうか。

【事務局】

各取り組み例が各分野の取り組みの方向性を網羅していないので、取り組みの方向

性から除外することはできないが、取り組み例ごとに対応したピクトグラムは掲載できるので検討したい。

【小林委員長】

30ページの成果指標の並び方についてだが、現在は分野順に並んでいると思うが、ライフステージ順に並んだ方がわかりやすいと思う。具体的には、「朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合」、「栄養教諭による「食に関する指導」実施学級数」、「1日の推定野菜摂取量（成人期）」、「介護予防教室の参加者数」、「農業体験学習等延べ参加者数」、「1人1日当たりの家庭系食品ロス量」にしてはどうか。

【事務局】

ご意見のとおり変更したい。

【事務局】

続いて、「資料編」について説明する。

内容としては、分野別に現計画の取り組み方針に基づき、どのような事業、取り組みが行われたかを所管部署からの報告に基づき記載している。

各分野の取り組み結果や実績数値は32ページから36ページのとおりである。

37ページは、現計画策定員名簿及び委員会開催経過を記載している。

【小林委員長】

何か質問はあるか。（なし）

3 閉 会

【小林委員長】

これで第2回江別市食育推進計画策定委員会を終了する。

以上